

(2) 教科プランの生かし方

指導者側が、プランを日々意識して授業ができるように、インデックスを付けて学習指導計画案に学期毎に貼付した。学期末には、各項目について自己評価（ABC）し、学年部会で話し合ったうえで、全体会において反省点を発表し合った。こうした積み重ねによって、次学期に力を入れて指導する視点が明確となった。

〈資料2の1〉

〔指導者の自己評価と反省〕

2年	算数	めざす子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に課題に取り組もうとする。 ・自分の考えをもって、課題解決に取り組む。 ・既習事項を基に解決し、生活に生かす。 		
<p>具体策・実践事項</p> <p>◎個々の考えを大切に、操作活動を基にした念頭操作活動を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中から具体的な場面を設定する。 ・ドリル等を効果的に活用しながら定着の時間を確保する。 ・既習事項と生活場面との関連を図る。 		<p>自己評価</p> <p>(A) B C</p> <p>A (B) C</p> <p>(A) B C</p> <p>A (B) C</p>
<p>・学年差が大きく全く同様に授業を進めることはできない。当然、下丁の形態も別になる。九九算の学習で2クラス3丁を実施したが、後半は1クラス2丁。1丁が効果があがってはいないと思う。九九を覚えるのに差が大きいため、家庭での学習を促すようにしよう。</p> <p>・2学期は九九と算数の精一杯のために3学期は活用できるように練習したい。</p>		

3年	算数	めざす子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもって、意欲的に課題解決に取り組む。 ・解決の喜びを味わい、その後の学習や生活の場で活用しようとする。 		
<p>具体策・実践事項</p> <p>◎個々の考えを大切に、図や文を使って表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レディネスを把握し、効果的な課題提示の工夫をする。 ・個に応じた支援を充実させる。 ・ドリル、プリント等を用いて反復させる。 ・ノートの活用を工夫する。 		<p>自己評価</p> <p>(A) B C</p> <p>(A) B C</p> <p>(A) B C</p> <p>(A) B C</p> <p>A (B) C</p>
<p>・レディネスの結果は、課題提示の工夫だけでなく個別支援に依存して、毎時よむの後に練習時間を設けるようにして、最後一人までできるようにしよう。</p> <p>・がぶり時間オーバーは、必ず最後までやらなければならないという意識は高まったように思う。プリントによる練習は子どもには負担が大きい。次の学年で学習内容を覚えてもらうように工夫したい。</p> <p>・学年終了時、定着を図るための練習が必要である。</p> <p>・ノートをしっかりと活用できるように促していきたい。</p>		

〈資料2の2〉

〔学年部会の反省〕

第2学期 研修の反省 2学年
1、国語・算数基礎学力向上プランの具体策・実践事項の反省

2年	国語	めざす子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・話す人を見て、よく聞く。 ・順序を考えて、分かりやすく話す。 ・読み物を進んで読む。 		
<p>具体策・実践事項</p> <p>◎聞き方のきまりについて意識付けを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や諸活動の中で、話す機会を与えるよう配慮する。 ・読み聞かせや読書の時間を確保する。 ・見たこと、したことを絵や作文などで自分の気持ちをこめて表現させる。 		<p>自己評価</p> <p>A (B) C</p> <p>(A) B C</p> <p>(A) B C</p> <p>A (B) C</p>
<p>読み聞かせや読書の時間を確保できた。子どもも読者に興味や関心を持つことができた。</p> <p>見たこと、したことを長く書けるようになった。自分の気持ちや文章の書き方(かぎかきや句読点の使い方)などについても指導していきたい。</p>		

2年	算数	めざす子どもの姿
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に課題に取り組もうとする。 ・自分の考えをもって、課題解決に取り組む。 ・既習事項を基に解決し、生活に生かす。 		
<p>具体策・実践事項</p> <p>◎個々の考えを大切に、操作活動を基にした念頭操作活動を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中から具体的な場面を設定する。 ・ドリル等を効果的に活用しながら定着の時間を確保する。 ・既習事項と生活場面との関連を図る。 		<p>自己評価</p> <p>(A) B C</p> <p>A (B) C</p> <p>(A) B C</p> <p>A (B) C</p>
<p>生活科のおまつりなど、身近な生活の中から計算の学習へとつなげることができた。定着の時間を十分に確保し、T・Tという形で一人ひとりの学習の確かめができた。おはじきなどの操作活動さらに発展させて行うと念頭操作活動も行えるようになった。</p>		

昨年度は、学年部会で話し合ったことをまとめて現職だよりで知らせてきたが、今年度は、全体会の中で発表し合う形式をとった。これによって、各学年でどのような取り組みをしているのか具体的に知ることができ、よい実践は互いに取り入れようとするようになった。

また、共通の悩みについては、話し合っ学校全体で取り組んでいこうという方向付けの場となった。

各学年が視点として掲げた項目以外にも、基礎学力向上のために大切なことは多々考えられる。学習訓練の問題、教材教具の問題、生徒指導上の問題等、総合的に考えていく必要がある。これらの様々な問題を話し合う場として、プランの反省を現職教育の全体会で行ってきたことはよかったと考える。